全国市町村国際文化研修所
学　長　藤原 通孝

多様性の時代へ

明けましておめでとうございます。昨年は、５月に「令和」の時代を迎え、新たなスタートを切りましたが、夏の酷暑に続き、台風15号、19号等大きな自然災害が打ち続いた年でもありました。災害からの復旧・復興は長い道のりです。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに、自らも被災者でありながら、今このときも奮闘されている自治体関係者の皆様に心から敬意を表したいと存じます。

また、昨年は、ラグビーワールドカップ2019が日本各地で開催され、日本代表の大活躍による初の決勝トーナメント進出など、大きな盛り上がりを見せた年でもありました。ある方が、今回の日本代表チームの在り様が、今後の我が国の行き方にも大きな示唆となるのではないかとおっしゃっていたのが印象的でした。31人の選手中約半数の15名が日本以外の国出身で、でも彼らは「助っ人」ではなく「桜ジャパン」の一員で、「日本」の旗印のもとに共に闘い、前進する同士でもあります（この「日本」のところに、○○市、△△町等といった名前を入れてみるのも楽しいです）。さらに、ポジションごとにそれぞれ異なる役割があり、強靱な肉体で勝負するものあり、俊敏性を活かすものありと、各自の個性を活かして活躍できる（それぞれに途方もない努力と鍛錬が前提とされることは暫（しばら）く措（お）き）という点に、まさに多様性（ダイバーシティ）の時代を強く感じました。出自、国籍の多様性は、「多文化共生」を大きなテーマの一つとして永年取り組んできた我がJIAM（全国市町村国際文化研修所）にとっても、大きな支えとなってくれますが、考えてみれば、人間元々多様なのは当然で、そんな人々が集まって社会を構成しているもの。変化する時代の中で、おのおのの個性を活かし活躍できる基盤、プラットフォームをつくり、運用することは、地方公共団体、なかんずく住民に最も身近な基礎自治体である市町村に求められる重要な役割の一つなのでしょう。そのためには、首長、議員、職員さらにはNPO職員等の「公（おおやけ）」に携わる皆様が、新たな時代の新たな課題に対応するための知識を身につけ、ネットワーキングを深め、相互に連携して対応していただくことが不可欠です。

昨年、平成５年の開講以来の受講者数が10万人を突破したJIAMとしても、そのためにお役に立てるプラットフォームでありたい。本年も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますことをお願いして、年頭の挨拶とさせていただきます。

本年もJIAMをどうぞ宜しくお願いします！